

教育あきた 3月号

2025 No.760



主な内容

HOT VOICE	秋田県教育委員会 大塚美穂子教育委員	P 2
HOT VOICE	秋田県教育委員会 高橋重剛教育委員	P 3
事業紹介	ICTを活用した授業力向上事業	P 4
TOPICS	いのちの教育あったかエリア事業 キャリア教育実践研究協議会	P 5
事業紹介	わか杉っ子！育ちと学び支援事業	P 6
事業紹介	学校図書館の活性化支援	P 7
TOPICS	第39回秋田県教育研究発表会	P 8
S P O T	企画展のご紹介	P 9
S P O T	あきた文学資料館新収蔵資料展案内	P 10
お知らせ		P 11

任期満了により退任した大塚和歌子委員と伊勢昌弘委員の後任として、令和6年10月31日に大塚美穂子氏、11月1日に高橋重剛氏が新たに教育委員に就任しました。今回は、教育委員就任に当たり、これまでの経験や教育への思いについて、寄稿していただきました。

教育委員就任にあたって

秋田県教育委員会委員 おおつか
大塚

みほこ
美穂子



この度、秋田県教育委員会委員に就任いたしました大塚美穂子です。

私は、小児科医で、能代市の病院で勤務医をしています。福岡県出身で、能代市出身の整形外科医と結婚し、福岡－青森－秋田県で小児医療に従事してきました。一般診療はもちろんですが、秋田県に来て、県北児童相談所の嘱託医を25年間、発達障害・不登校などの問題を抱えた児童の専門外来を開設して15年、同じく15年前には自分の子育て時期に欲しかった病児保育室を病院内に開設するなど秋田県の子ども達にかかわってきました。

小児医療は、私が医師になってからも大きく変わりました。日本全体に見ても大きな少子化の波、予防接種の充実による感染症の軽症化、そして新興感染症の出現や心の問題を抱える子供の増加など、医師になって30年以上にもなっていますが、知識をアップデートするのに日々奮闘しています。

このような仕事の中で子ども達と関わる度に感じるのは、教育の大切さです。昔も今も子ども達は学校で過ごす時間はとても長く、そこで得た知識や経験が個々を形成します。私は特別支援教育にかかわる先生方と多く関わってきましたが、この分野においても、法律の制度化や障害への理解度、対応手段など、以前よりもかなり子ども達やそこに関わる人たちにとって良い方向に変わってきたと思っています。

私の日々の診療で、学校や幼稚園、保育園での学習や集団生活に困難を感じている子ども達

やその保護者への関わりは、子どもの数は減っているにもかかわらず、以前よりも増えてきているのが現状で、教育現場の先生方からの子ども達の情報はとても参考になっています。医療側から診るだけではわからないところの情報が得られたり、保護者からのお話だけでは気づかない子どもの一面を理解することができたりしています。

学校などの教育現場は小さな社会です。ここに参加して子ども達は社会性を伸ばしていくのですが、残念ながら不登校の子ども数は年々増え続けていて、多様性の時代といわれる現代社会に適応できない子ども達を、どのようにして社会参加させていくかは、大人たちの大きな課題ではないかと思っています。

医療現場では医師や看護師だけではなく、多くの職種（薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、リハビリ療法士など）の連携により、患者様により良い医療を提供し治療していくことが平常となりつつあります。教育も、教員だけでなく、心理職や他の分野の専門職の力を加えた他職種で協力しながら、現代の子ども達に向き合っていくことが必要だと思っています。

このたびの教育委員の就任は、子どもとかかわる仕事の集大成として考え、秋田県の子ども達のために、そしてそこに関わる教員のみならず、みんなのためにお役に立つような仕事ができればと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。

教育委員就任にあたって

秋田県教育委員会委員 たかはし 高橋 じゅうこう 重剛



この度、秋田県教育委員会委員を拝命した高橋重剛と申します。

職業は弁護士で、由利本荘市で執務しています。

はじめに、私と教育との関わりについてお話しします。私は平成17年度の司法試験に合格しましたが、大学を卒業して合格する30歳までの間、昼は司法試験の予備校で勉強し、夕方からは、都内の塾で中学生を相手に数学を教えていました。昼間、法律の勉強でコチコチになった頭を、教えることで解きほぐし、その上で子ども達からパワーをもらって家路に着くという生活でした。

弁護士となり秋田に戻ってからも、子ども達と関わっていきたいという思いが強く、弁護士会が行っている法教育（これは、法や司法制度、法の根底にある価値を理解し、法的なものの考え方を身につける教育のことをいいます。）を普及する活動を行ってきました。具体的には、夏休みにはジュニアロースクールと称して、弁護士会館に中学生を招いて、刑事模擬裁判などを行ったり、学校からお呼びがかかればすぐに馳せ参じ、仕事の話などをしたりしてきました。弁護士という職業柄、紛争や事件に巻き込まれた人と多く接し、自分自身も疲弊しながら職務にあたっておりますが、子ども達の元気な姿を見ると、私自身の心が晴れていくのを感じておりました。

どのような経緯で、私が教育委員という重責を担うことになったのかは分かりませんが、私

の子ども達に対する思いやこれまでの活動が目にとまったのであれば、たいへんうれしく思います。

元気で素直な子ども達をみていつも思うのは、将来、この子達が、事件や事故、紛争とは無縁の生活を送ってほしいということです。とはいえ、この多様化した社会において、人と衝突することは避けられません。せめて、そのような場面に遭遇したら、うまく調整し、自分はもちろん、できれば相手も満足のいく解決を実現してほしいと思うのです。そのスキルこそが、弁護士の私が考える「生きる力」です。そして、その生きる力の源泉になるのは、憲法の基本理念たる、基本的人権の尊重の理解に尽きると考えています。もちろん、自分だけが尊重されればよいというのはわがままにすぎません。大事なのは、自分が尊重されるのと同じように、ほかの人も尊重しなければならないということです。このことを私は常々子ども達に伝えたいと思っています。

教育委員を拝命してまだ日が浅いこともあって、どのような活動があるのか、自分がどのようにお役に立てるのか分かりませんが、精一杯努める所存です。皆様、どうぞよろしくお願い致します。

ICTを活用した授業力向上事業

県教育委員会では、今年度から、県内3管内のモデル校において、義務教育課の指導主事が伴走型の支援を行うことを通して、ICTの活用と授業力向上を両輪とした授業改善を推進する取組をスタートしました。

「授業力のキーワード」を大切に、より質の高い「秋田の探究型授業」の継承・発展を目指しています。

授業力のキーワード

- | | |
|----------|----------|
| ①授業を楽しむ | ⑥見取る力 |
| ②必要感 | ⑦児童生徒が主役 |
| ③ねらいの明確化 | ⑧コーディネート |
| ④学習習慣 | ⑨言葉掛け |
| ⑤ICTの活用 | ⑩振り返り |

モデル校の授業の様子

<北管内> 八峰町立八森小学校

登場人物の評価を棒グラフで表したり、自分の考えをタブレットに書き込んだりして、お互いに説明し合う姿が見られました。



<中央管内> 由利本荘市立鳥海小学校

色分け機能を活用して「自信あり」「なし」を可視化し、自信のない内容について、ペアでヒントを出し合う姿が見られました。



<南管内> 美郷町立仙南小学校

デジタル教材を活用して図形を回転させたり、書き直したりしながら、考えを深める姿が見られました。



オンライン・ミーティング (令和7年1月9日)

事業の成果を県内外に発信するオンライン・ミーティングを開催しました。パネル・ディスカッションでは、各モデル校の代表の先生方に、日々の授業で大切にしていること等について、それぞれの立場から語っていただきました。

若手教員



困っている子どもにも自信をもたせるような言葉掛けをし、学び合いを通して「分かった」「できた」につなげられるよう心掛けています。

問題を解決するにはどうすればいいか、自分たちで考えながら進んでいくことができる子どもを育てたいと考えています。



中堅教員

研究主任



子どもたちが「どうしてかな」「本当かな」とワクワク感をもって授業にのめりこめるような授業づくりを教師も楽しみたいです。

子どもを見て、子どもに聞いて、子どもの考えに寄り添って、一人一人が納得できる授業が大切だと考えています。



管理職

- ① 授業を楽しむ
- ② 必要感

- ⑦ 児童生徒が主役
- ⑩ 見取る力

いのちの教育あったかエリア事業

推進地域（推進校）
の実践紹介

本県の道德教育の重点である「生命尊重・思いやりの心」を育てる教育を「いのちの教育」として本事業に位置付け、推進地域において、学校と家庭・地域が連携しながら一体となって命の大切さについての認識を高めるモデルづくりを行っています。

推進地域（推進校）：湯沢市（湯沢東小学校、湯沢北中学校）

豊かな関わりの中で、自己を見つめ、よりよい生き方を考える子どもの育成を目指し、「本音に迫る授業改善」「心に響く体験活動」「人とつながる交流の場」を重点項目として、道德教育の実践に取り組みました。

- 活動：自分の心を見つめ、他者との関わりで考える授業（各学校）
「いのちの大切さ」「生き方」学習教室（小・中合同）
「ボランティアさんありがとう集会」（小学校）
「地域の祭りへの参加」（中学校） など

○参加者：小学生、中学生、教職員、地域住民、講師など

○内容：道德科の授業では、主なテーマであるいのちの大切さや思いやりについて、子どもたちが意見を交わし合い、自分の心と深く向き合いました。また、各方面で様々な経験を積まれた方々のお話を直接聞いたり、地域の方々と協力して共に取り組んだりする体験活動を行いました。これらの学習を通して、子どもたちは自分や周囲の人々を大切にしようとする気持ちが高まり、将来の生き方について考えを深めることができました。



いろいろな考えに触れる対話の時間（道德科の授業より）



講話「失ったものではなく、今あるものを見つめて」

地域に根ざしたキャリア教育の一層の充実を目指して

令和6年10月29日（火）に、「令和6年度キャリア教育実践研究協議会」を県総合教育センターを会場に開催しました。県内の小・中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校の教員114名が参加し、講演、各校種の実践発表、グループ別協議などを通じて、キャリア教育の充実に向けた取組を共有することができました。

有識者による講演

秋田大学教職課程・キャリア支援センター 講師 ^{のむら はやお} 野村 駿 氏から、若者の進路や働き方、生き方に関する御自身の研究に基づいた具体的なお話を伺い、これまでのキャリア教育の成果と課題について参加者が考えを深めることができました。



野村 駿氏による講演

実践発表

3校の先生方から、地域や企業等と連携した特色ある実践を紹介していただきました。各校種の具体的な取組事例を共有する上で貴重な機会となりました。

実践発表校

男鹿市立男鹿南中学校
県立新屋高等学校
県立大曲支援学校

グループ別協議

校種混合のグループで、「子どもたち一人一人の確かなキャリア発達を促す、これからの体験活動等の在り方」という視点で協議を行い、各校種における様々な実践の工夫や、取組を進めるに当たっての悩みなどについて、情報交換を行いました。

わか杉っ子!育ちと学び支援事業

乳幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、乳幼児期の教育・保育においては、子どもが自発的・主体的に人やものに関わりながら、遊びを通して学びや生活の基盤となる資質・能力を育みます。こうして育まれた資質・能力を小学校以降の教育で更に伸ばしていくことが重要であり、子どもたちの将来を見据え、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しながら、乳幼児期と児童期の教育が円滑に接続されるよう、架け橋期における教育を充実させる必要があります。このため、県教育委員会では、市町村における幼児教育推進体制の構築・充実にに向けた取組と「幼保小の架け橋プログラム」実施への支援に取り組んでいます。

乳幼児期の育ちと学びを未来につなぐ

乳幼児期

遊びや生活を通して学ぶ時期

架け橋期

生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるための重要な時期

(5歳児から小学校1年生までの2年間)

児童期

教科等の学習を通して学ぶ時期

幼保小の架け橋プログラム

架け橋期の教育の充実を図るため、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて自分事として連携・協働し、子ども一人一人の多様性に配慮した上で、全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指すものです。

架け橋プログラム市町村訪問

市町村における幼保小連携の基盤づくりとともに、架け橋期のカリキュラム開発等を支援しています。市町村が主催する就学前教育・保育施設、小学校等、行政関係者によるカリキュラム開発のための会議に参加し、助言・指導を実施しています。



就学前教育推進協議会

各市町村の教育委員会及び就学前教育・保育施設担当部局の担当者を対象に、地域に適した幼児教育推進体制の在り方や架け橋プログラムの理解促進と取組実践についての協議会を実施しています。



県立図書館は子どもの読書推進のため学校図書館を支援しています

学校図書館の活性化支援とその取組

県立図書館では、平成19年度から高等学校や特別支援学校図書館への支援として、図書のセット貸出しや学校図書館訪問等、様々な事業を行っています。また、小中学校の学校図書館に対しては、市町村図書館を経由して本の貸出しや研修会を実施する等、県全体における学校図書館の活性化を支援しています。今回は、これらの取組についてご紹介します。

1 セット貸出し

高等学校や特別支援学校に対して、テーマ毎に約40冊の資料を1つのコンテナに入れて貸出しをしています。学校図書館ですぐに展示ができるようテーマ名を記した看板も入っています。昨年度は、約1万6千冊の貸出しを行いました。今年度はセットの更新・追加により、78テーマ564セットの中から選べるようになりました。セットの内容については、今後も充実を図っていきます。

2 特別貸出し

セット貸出し以外の資料は、1校につき50冊まで、一か月間の貸出しをしています。生徒の読みたい資料が学校図書館に無い場合や授業や教材研究等で資料をまとめて借りたい場合などに利用されています。

3 学校図書館訪問

県立図書館職員が高等学校や特別支援学校の図書館を訪問して、図書館業務に関する相談に応じています。今年度も、本の整理や展示の仕方等について助言をさせていただきました。

4 高等学校・特別支援学校の教職員・生徒向けの研修

学校図書館や図書委員会活動の活性化を目的とした研修会を、年1回開催しています。今年度は「本の魅力と可能性」と題し、人と人、人と本をつなぐ手段を学び合いました。また、後半は各校の取組について情報交換を行い、他校の取組について理解を深める機会となりました。

5 レファレンス（調査相談）サービス

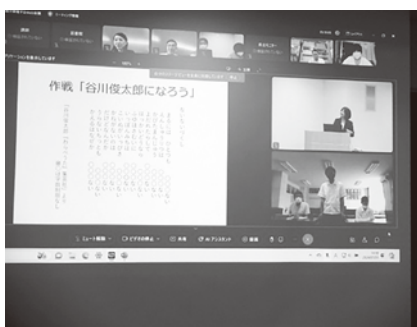
教職員や生徒の調べものについて、県立図書館の資料等を使って解決までの支援を行います。

6 学校専用ホームページ

セット資料のリストや貸出しの状況、各種申込みの様式等を掲載しています。



新規のセットと展示例



オンラインによる
「学校図書館職員等研修会」の様子

■お問合せ

秋田県立図書館
TEL 018-866-8400

※県立図書館の旬の情報をぜひ
ホームページでご確認ください！

秋田県立図書館

検索



郷土あきたの教育への提案

第39回 秋田県教育研究発表会

第39回秋田県教育研究発表会が、令和7年2月7日（金）に、湯上市の秋田県総合教育センターで開催されました。これは本県教育の振興を目的として、県教育委員会が毎年開催しているもので、一部オンライン配信を取り入れた集合型で実施し、県内外から240名余りの教員等に参加いただきました。研究発表会のコンセプトである「郷土あきたの教育への提案」の下、熱心に研究協議が行われました。

センター研究発表

共通テーマ「新たな時代に対応した秋田の教育」

総合教育センターでは、本県教育課題の解決に向けて様々な角度から研究に取り組んでいます。今年度は、教員研修、教科指導、生徒指導について、3年計画の研究1年次の発表を行いました。

センター研究1【教員研修】

「新たな教師の学びの姿」の実現を目指した研修デザインの探究

秋田県内の教師の学び（研修観）の転換が図られるよう、研修講座の見直しを進めてきました。自身の「観（子ども観、学習観等）」を問い直すとともに、自らの実践を振り返り、省察しながら主体的に学び続ける姿の実現に向けた研修講座の実際や手立てについて発表しました。

センター研究2【教科指導】

一人一人の子どもを主語にした学びの実現に向けた授業改善

「一人一人の子どもを主語にした学び」とは、どのような学びなのか。この問いをもちながら授業改善を図る教師を支援する研究です。アンケート調査から明らかになった実践上の課題を分析し、一人一人の子どもを主語にした授業づくりの講座プランについて発表しました。

センター研究3【生徒指導】

ウェルビーイングな学校生活につながる若手教師と児童生徒とのよりよい関係づくりのために

教師と児童生徒とのよりよい関係づくりについての研究です。1年次の今年度は、アンケート調査を実施し、若手教師の悩みを明らかにしました。アンケート調査の結果やベテラン教師からの助言をまとめた参考資料「先輩教師の技とコツブック」の作成について発表しました。

研究発表（口頭発表）

すぐれた研究成果の発表

各学校等から計26件の研究発表が行われました。国や県の委託による研究、大学院や長期社会体験研修における研究、総合教育センター研修員による研究等、多様な立場から先進的な研究成果が発表されました。



口頭発表の様子

参加者の声

- ・ 自校に還元したいと思えるような内容をたくさん学んだ。
- ・ 学校の課題解決のために具体的な提案がなされており、勉強になった。

講演

ウェルビーイングな学校をつくる～子供も・先生も幸せな学校へ～

講師：埼玉県上尾市立上平小学校 校長 中島晴美氏

先生方のウェルビーイングの高まりの先に、子どものウェルビーイングの高まりがあること。そして、「誰もがウェルビーイングで学びに没頭できる学校の実現」に向けて、具体的なイメージをもつ貴重な機会となりました。



講演の様子

参加者の声

- ・ 句の講演内容であり、興味深く拝聴した。今後の教育活動に活用したい。
- ・ ウェルビーイングの考え方を大人と子どもが共有すること、よりよい生き方を一緒に考えていくことが大切だと感じた。



秋田県立近代美術館 開館30周年記念コレクション展 第3期

「空色—うつりゆく景色」



画家たちが描く空の表情が、それぞれの作品の気分を表わしていることは言うまでもありません。本展では、日本の近現代の画家たちが描く「空」に注目します。空の表現から、画家たちが伝えたかったものに思いを馳せてみてください。近代美術館のコレクションから、秋田ゆかりの画家の作品を中心に、日本画・洋画・版画など約45点を展示しています。

会 期：2月5日（水）～4月13日（日）
9：30～17：00（最終入館16：30）
会 場：秋田県立近代美術館 6階展示室（横手市）
観 覧 料：無料
関連イベント：担当学芸員によるギャラリートーク
3月22日（土）14：00～ 30分程度
問い合わせ：秋田県立近代美術館
Tel 0182-33-8855

金子義徳《郊外》 1991年
秋田県立近代美術館蔵



令和6年度秋田県立近代美術館企画展

コレクション ミーツ 「Collection meets □□」

収蔵品（コレクション）に異なる要素を加えて展示し、いつもとは違った視点で作品鑑賞ができれば、という発想から企画した展覧会です。本展では、秋田県埋蔵文化財センター所蔵の考古資料と、当館のコレクションとをあわせて展示します。



山口静恵《さきもり》1980年
秋田県立近代美術館蔵

不思議な力に満ちた考古資料から、近現代の表現を尽くした美術作品まで、時代を超えた様々な造形の背景に思いを馳せながら鑑賞してみませんか。

会 期：3月15日（土）～4月20日（日）
9：30～17：00（最終入館16：30）
会 場：秋田県立近代美術館 5階展示室（横手市）
観 覧 料：無料
関連イベント：担当学芸員によるギャラリートーク
3月23日（日）13：30～ 40分程度
主 催：秋田県立近代美術館
協 力：秋田県埋蔵文化財センター
問い合わせ：秋田県立近代美術館
Tel 0182-33-8855

昭和前期横手の俳句界



明治時代、横手には戸沢百花羞の葛水会、安藤和風に選を依頼する月碎会などがあり活発に活動していました。しかし、大正時代に入ると新傾向俳句の流行の余波からか、停滞したようです。昭和2年6月、俳星派の俳人竹貫静山が横手裁判所に異動、妻せき女、長男稔也を伴い赴任します。静山の指導を得て昭和3年、菓子哀鹿は田鎖涼花、空人父子らとともに横手吟社を結成しました。

昭和3年の石井露月・島田五空の相次ぐ死。翌4年の加藤蕨江の俳誌『青雲』創刊による県内日本派の分裂。当初『俳星』とも交流のあった横手吟社の俳人たちは、やがて『青雲』一辺倒になります。哀鹿が残した『青雲』などの資料からは、戦時下にながら俳句に親しむ横手吟社同人の姿が見てとれます。また、蕨江はじめ、戸島露十、船山黙雷など青雲派の俳人からの書簡も残されており、遠隔の地にある俳友との交流の有様を知ることが出来ます。

あきた文学資料館
新収蔵資料展〈一〉

開催期間：令和7年3月15日(土)～5月11日(日)
開館時間：10時00分～16時00分
休館日：毎月曜日、および5月4日～6日は休館
場所：秋田市中通6-6-10 あきた文学資料館
電話：018-884-7760
入館観覧：無料

☆生涯学習課☆

TEL 018-860-5181

ビブリオバトル2024 in AKITA (秋田県大会) 録画配信中!

令和6年11月30日(土)に開催した「ビブリオバトル2024 in AKITA (秋田県大会)」の様子を録画配信しています。県内中高生バトラーの熱い戦いを是非ご覧ください。



録画配信や情報は
こちらから

秋田県青少年交流センター(ユースパル)の 施設利用を再開します!

工事に伴い休館しておりました青少年交流センターは、令和7年3月1日に営業を再開しております。

皆様のお越しをお待ちしておりますので、是非ご利用ください。

○青少年交流センター (ユースパル)
TEL : 018-880-2303

☆保健体育課☆

TEL 018-860-5202

令和8年度 全国高等学校総合体育大会 スキー大会秋田県開催決定!

期 日：令和9年2月上旬(5日間)

会 場：鹿角市花輪スキー場

競技・種目：

- アルペン競技(男子・女子)
 - ・ジャイアントスラローム種目
 - ・スラローム種目
- クロスカントリー競技(男子・女子)
 - ・クラシカル種目 ・フリー種目
 - ・リレー種目
- ジャンプ・コンバインド競技(男子)
 - ※女子は公開競技
 - ・スペシャルジャンプ種目
 - ・ノルディックコンバインド種目

本大会の秋田県開催は平成30年度以来10回目となります。

☆県立博物館☆

TEL 018-873-4121

企画展

秋田の宝 県指定文化財展

日 時：2月15日(土)～4月6日(日)
9:30～16:00(3月末日まで)
9:30～16:30(4月1日より)

休館日：毎週月曜日

(休日と重なった場合は次の平日)

観覧料：無料

県指定文化財の中から、男鹿や象潟を描いた屏風、市井の人々を描いた絵巻など、約300点の資料を紹介します。「秋田の宝」、ぜひご覧ください。

秋田県特別支援学校文化祭 作品紹介

第22回わくわく美術展

絵画作品部門 最優秀賞 (応募数 727点)



「オレの羽きれいだろう？」
土崎中学校
鈴木 結翔



「能代七夕天空の不夜城」
比内支援学校
小松 陽乃

自由作品部門 最優秀賞 (応募数 89点)



「光の塔」
比内支援学校かづの校
泉谷照一郎、佐藤広翔、
高橋玄、田代真人、
成田悠斗、藤原優海、
松澤悠翔、阿部航大、
木村地慊、木村真音、
藤原榎寧海、小田島天佑、
伊藤祥太郎、菊池恵斗、
櫻大虎、清水詠杜



「レインボーブリッジから
あがる花火」
大曲支援学校
三浦 真央

令和6年度みんなの写真展 最優秀賞 (応募数 501点)



「ピアノ、じょうずに
ひけるかな」
天王みどり学園
宇佐美 大翔



「この色にとまれ」
比内支援学校
安部 玲夏

■「教育あきた」は、県の教育関連施設や市町村の公民館、図書館等に設置しています。
また、県公式ウェブサイト「美の国あきたネット」からもご覧いただけます。

この印刷物は4,800部作成し、印刷経費は1部当たり23.83円です。



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

令和7年3月14日「教育あきた」No.760
発行・秋田県教育委員会
編集・秋田県教育庁総務課
〒010-8580 秋田市山王三丁目1-1
TEL.018-860-5112 FAX.018-860-5851
Eメール soumu-edu@pref.akita.lg.jp
<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/education>